

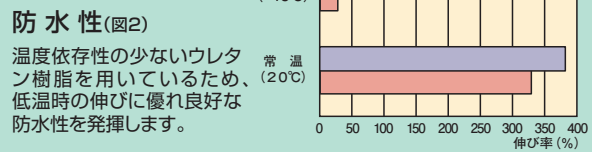
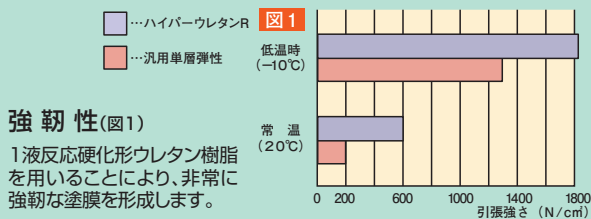
水系1液反応硬化形ウレタン単層弾性塗材

DIHA ダイヤ ハイパーウレタンR

ひび割れを強固にガードし、 強靱な塗膜が長期にわたり建物を維持します。

コンクリートにひび割れが生じる時には塗膜を引き裂く力が作用します。しかし塗膜の抵抗力が大きければ、塗膜そのものにひび割れが生じることはありません。この抵抗力の目安が抗張積(引張強さ^{*1}×伸び^{*2})。これが大きいほど塗膜は破断しにくくなります。三次元網目構造のウレタン結合で抗張積を大きくすることにより、ダイヤハイパーウレタンRの強靱な塗膜を実現しました。

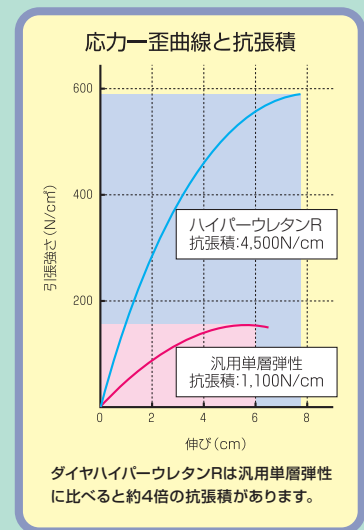
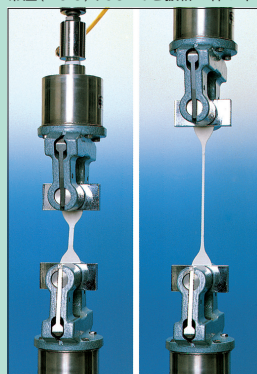
*1 ひずみが大きくなると材料は破断する。その前に材料に表れる最大の引張応力、あるいは材料が耐える最大の引張り応力のこと。
*2 材料が破断する直前における最大の変形量(ひずみ)のこと。もとの長さに対する比率で表す。



ダイヤハイパーウレタンR 成績表

試験項目	品質基準	結果	試験方法
塗膜の外観	見本品に比べて、流れ・割れ・色模様・凹凸の差異が少なく、むら・空の発生が大きいこと	異常なし	目視
低温安定性	塊がなく、組成物の分離・凝集がないこと	異常なし	JIS A 6909:2003 7.5
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	3m/secの気流で、ひび割れが生じないこと	異常なし	JIS A 6909:2003 7.8
付着強さ	標準状態 0.7N/mm以上 浸水後 0.5N/mm以上	2.3 2.5	JIS A 6909:2003 7.9
低温繰り返し作用に対する抵抗性	試験体の表面に、はがれ・ひび割れ・膨れがなく、かつ著しい変色がないこと	異常なし	JIS A 6909:2003 7.10
耐衝撃性	ひび割れや著しい変形及び基板との剥がれのないこと	異常なし	JIS A 6909:2003 7.14
耐候性 (A法)	WS型ウレタン樹脂で250時間照射しても、割れ・ふくれ・割れ・割れ・白変色がないこと 見本品に比べて色の変化が大きいこと (グレースケールで3以上)	異常なし	JIS A 6909:2003 7.18
伸び	20°C時	120%以上	387
	-10°C時	20%以上	75
	浸水後	100%以上	175
	加熱後	100%以上	200
伸び時の劣化	割離・戻り・おしれがなく、主材に破断及びひび割れがないこと	異常なし	JIS A 6909:2003 7.30
耐汚染性	屋外暴露1年間において、著しい汚れが見られないこと	異常なし	NSKS-013
耐酸性	5 wt%硫酸溶液に24時間浸しても塗膜に著しい変化がないこと	異常なし	JIS K 5600:1999 6-1
防かび性	塗膜に1か月間カビが生じないこと	異常なし	JIS Z 2911:2000
防藻性	塗膜に1か月間藻が生じないこと	異常なし	自社試験法

引張り試験
常温(20°C)で387%と抜群の伸び率



ダイヤハイパーウレタンR

標準仕様

工程	材料	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間(※1)	施工用具
下地調整	◎コンクリート、モルタルは充分乾燥させてください(含水率 10%、pH10以下)。 ◎レイトンス、エフロ、油脂類、ホコリ等を除去し、豆板欠け、不陸、目違いはポリマーセメント補修材で平滑に補修してください。 ◎吸込み差がある場合には、下地調整材セメンシヤス#2000を前面に塗布し、吸込みを均一にしてください。					
1 下塗り	ダイヤワイドシーラー ※2 無希釈	15kg	0.1～0.2kg/㎡ 75～150㎡/缶	1	2時間以上	刷毛、中毛ローラー エアレス
さざ波模様	2 ダイヤハイパーウレタンR 清水	16kg 0～0.5リットル	0.8～1.0kg/㎡ 16～20㎡/缶	1	5時間以上	多孔質ローラー
	3 ダイヤハイパーウレタンR 清水	16kg 1.0～1.3リットル	0.2～0.3kg/㎡ 53～80㎡/缶	1	—	中毛ローラー ※3

※1 間隔時間は、標準状態(23℃、50%RH)での時間を示します。 ※2 下地の吸込みが著しい場合には2回塗りしてください。
また、改修仕様の場合は、ダイヤアクリスフィラー、ダイヤガンコシーラーを状況に応じて使い分けてください。 ※3 多孔質ローラーを用いる場合もあります(清水希釈0～0.5% 所要量0.8～1.0kg/㎡)。

改修工法(施工例)

下地調整	各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行ってください。					
1 下地処理	ダイヤアクリスフィラー 清水	1.0～1.3リットル	0.3～0.5kg/㎡	1	5時間以上	中毛ローラー
		0.5～0.8リットル	0.8～1.0kg/㎡	1	16時間以上	多孔質ローラー
さざ波模様	2 ダイヤハイパーウレタンR 清水	16kg 0～0.5リットル	0.8～1.0kg/㎡ 16～20㎡/缶	1	5時間以上	多孔質ローラー
		3 ダイヤハイパーウレタンR 清水	16kg 1.0～1.3リットル	0.2～0.3kg/㎡ 53～80㎡/缶	1	—

適用下地

コンクリート(PC、RC)、セメントモルタル、石綿スレート、フレキシブルボード、サイディングボード、軽量気泡コンクリート(ALC)※、コンクリートブロック※、各種塗り替え下地(リシン、タイル、スタッコ、弾性塗膜等)※※
(*印=ダイヤアクリスフィラー等による下地調整(目つぶし)が必要です。*印=旧塗膜の状況により下塗材の種類が変わります。)

施工・管理上の注意点

【塗装面の調整(新設)】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レイトンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要で。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④PC/RC、現場打ちコンクリートの場合
 - 1)豆板、木コン、被覆箇所、不陸などは、セメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500等の下地調整材を使用し、補修して平滑にしてください。
 - 2)表面が緻密でレイトンス層がある場合は、レイトンスを除去し、ダイヤガンコシーラー又は、ダイヤワイドシーラーをご使用下さい。
- ⑤ALCパネルの場合
ダイヤガンコシーラーを塗布して下さい。

【塗装面の調整(新設・改修共通)】

- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整(改修)】

- ①各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行って下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等で高圧洗浄で除去して下さい。
- ④既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には、高圧水洗浄後にダイヤガンコシーラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5～35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨(雪)養生をして下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付属乾燥機と取れませんので、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全にしない、施工時建物の周辺に飛散しないよう注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと残りが残りバリとなります。
- ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
- ⑤下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の原因となります。
- ⑥施工にあたっては、同一方法で、入り際、出隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
- ⑦施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- ⑧本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
- ⑨希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に曇色や下地の吸い込みがない場合等は希釈して下さい。
- ⑩常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑪安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑫一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑬塗装下地の度によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑭フラスコや無機系などの難燃塗料が塗布されている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄りの営業所へご相談下さい。
- ⑮可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。

⑯使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。

【安全衛生上の注意】

- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ②取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④作業中・作業後は十分換気を行ってください。
- ⑤塗料、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切った容器は、廃棄して下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

【その他】

- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
- ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書をご確認ください。
- ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート(SDS)をご確認ください。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。